

都市再生整備計画 事後評価シート  
北の防人大湊地区  
(原案)

平成27年12月

青森県むつ市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	青森県		市町村名	むつ市		地区名	北の防人大湊地区			面積	510ha		
交付期間	平成23年度～平成27年度		事後評価実施時期	平成27年度		交付対象事業費	1,316百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		<b>事業名</b> 道路【市道宇田水源地線、市道桜木町3号線、市道桜木町4号線、市道桜木町5号線、市道桜木町9号線】、公園【水源地公園(管理施設、園路、施設改修)】、地域生活基盤施設【北の防人大湊展望台ポケットパーク、北の防人大湊エントランスポケットパーク、広場(収蔵庫周辺、観光交流センター周辺)、情報板】、高次都市施設【観光交流センター】、既存建造物活用事業【地域交流センター(学習センター、収蔵庫)】 地域創造支援事業【案内サイン、便益施設(観光交流センター、観光交流センター外構)、撤去(公園管理棟、小屋)、備品倉庫整備】、事業活用調査【事業効果分析調査】、まちづくり活動推進事業【景観ルール策定ワークショップ、観光案内パンフレット作成】										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	①道路【市道桜木町5号線(駐車場)】 ②道路【市道スキー場線(駐車場)】 ③道路【市道(自歩行道)】 ④地域生活基盤施設【広場(女子寮周辺)】 ⑤既存建造物活用事業【地域交流センター(女子寮)】			削除/追加の理由 ①市道桜木町4号線に駐車場を整備することとしたため ②事業内容の精査及び市道桜木町4号線に駐車場を整備することとしたため ③市道桜木町5号線への駐車場整備を削除したため ④地域交流センター(女子寮)整備を削除したため ⑤歴史的価値が非常に高いと判断され、保存活用についての検討を行うこととし、事業計画期間内の完了が困難となったため			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 ①～③影響なし ④～⑤指標1に関係するが、指標及び数値目標は据え置く。				
		提案事業	事業活用調査【オープンカフェ社会実験】			観光交流センターの完成が遅れ、社会実験で検討していた内容の実施が困難となったため			影響なし				
	新たに追加した事業	基幹事業	道路整備事業【市道桜木町4号線(駐車場)】			より回遊性の高い公園中心部に駐車場を整備することとしたため			影響なし				
		提案事業	地域創造支援事業【備品倉庫整備】			イベントなどで使用する備品の管理倉庫が必要となったため			影響なし				
	交付期間の変更	当初	平成23年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響			—					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	北洋館入場者数	人/年	5,577	H21	10,400	H27	8,843	10,626	○	あり	各施設の整備・改修による、景観づくりや観光・交流ゾーンの形成により、回遊性の向上及びイベント回数の増加につながり、水源地公園への来訪者が増加した効果により、北洋館入場者数が増加した。	平成29年4月
	指標2	認識度調査アンケート	%	19.2	H22	75.0	H27	22.1	18.0	×	あり	水源地公園を訪れる市民が少なく、重要文化財にふれる機会が少ないほか、地域交流センター(収蔵庫)や案内サイン等の整備が、アンケート調査時点では未完了であり、PR不足となったことから、目標値を下回った。	平成29年4月
	指標3	イベント回数	回/年	3	H22	7	H27	3	8	○	あり	観光交流センターをはじめ、各施設の整備・改修により、誰もが訪れたい環境が創出され、イベントの開催機運が高まった効果により、観光交流センターや公園内を活用したイベント回数が増加した。	—
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	観光交流センター入館者数	人/年	0	H22			—	50,959			カフェテリアやおみやげ店を備えた観光交流センターのほか、各施設の整備・改修により、誰もが訪れたい環境が創出されたことや、イベント回数が増加した効果により、多くの市民や観光客に利用されている。	平成29年4月
4)定性的な効果発現状況	・「旧学習センター」を改修した「みどりのさきもり館」では、「花とみどりの講習会」などの花やみどりに関する催しが開催され、市民参加者からの好評を得ているほか、市内におけるみどりと花のまちづくりの拠点となっている。 ・「花とみどりの講習会」への参加者に、「観光交流センター」のカフェで利用できるドリンク券を配布するなど、施設間の連携を図っており、相互の賑わいを創出している。 ・駐車場、園路のバリアフリー化のほか、ポケットパークや便益施設などの整備により、介護施設の入所者が団体で訪れるなど、新たな交流や憩いの場として利用されている。 ・園路、トイレなどの整備や景観づくりにより、散歩やジョギングなどで多くの市民に利用されている。												
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	各指標の目標値の達成状況を把握する。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● ● 北の防人大湊地区関連施設の入館者数の動向を随時確認する。 重要文化財のPR活動を強化し、認知度の向上を図る。 水源地公園周辺におけるイベント回数の動向を把握していく。				
	住民参加プロセス	対象地区における景観づくりを継続させるための景観ルールを策定するため、市民協働によるまちづくり手法として、ワークショップを開催する。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● まちづくりや事業の実施にあたっては、地域住民・団体との連携を図り、必要に応じて意見交換等を行う。				
	持続的なまちづくり体制の構築	—			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				—				



# 都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	市道宇田水源地線	11	L=70m	7	L=71m	設計内容の修正による事業費減	影響なし	●	
	市道桜木町3号線	38	L=300m	24	L=244m	設計内容の修正による事業費減	影響なし	●	
	市道桜木町4号線	38	L=300m	58	L=296m	より回遊性の高い公園中心部への 駐車場整備を追加したことによる事業費増	影響なし	●	
	市道桜木町5号線	81	L=100m	12	L=111m	市道桜木町4号線への駐車場整備 の追加に伴い、本路線の駐車場整備 を削除したことによる事業費減	影響なし	●	
	市道桜木町9号線	51	L=150m	49	L=140m	設計内容の修正による事業費減	影響なし	●	
	市道スキー場線	31	A=1,000㎡	0	A=0㎡	平成25年に計画変更して削除 事業内容の精査及び市道桜木町4 号線への駐車場整備の追加に伴 い、本路線の駐車場整備を削除	影響なし		
	市道(自歩行道)小路	6	L=140m	0	L=0m	平成25年に計画変更して削除 市道桜木町5号線の駐車場整備の 削除に伴い、本駐車場と公園を結 ぶ本路線を削除	影響なし		
公園	水源池公園(管理施設・園路・施設改修)	319	A=5.6ha	307	A=5.6ha	工事完了(見込み)に伴う精査による 事業費減	影響なし		●
地域生活基盤 施設	北の防人大湊展望台ポケットパーク、北の防人大湊エントランスポケットパーク、広場(収蔵庫周辺、観光交流センター周辺)、情報板	171		208		・地域交流センター(女子寮)整備 の削除に伴い、女子寮周辺の広場 整備を削除 ・設計内容の修正による事業費増	影響なし		●
高次都市施設	観光交流センター	104	A=120㎡	195	A=392㎡	設計内容の修正による事業費増	影響なし	●	
既存建造物活 用事業	地域交流センター(学習センター)	92	A=280㎡	117	A=473㎡	設計内容の修正による事業費増	影響なし	●	
	地域交流センター(収蔵庫)	112	A=300㎡	143	A=283㎡	工事完了(見込み)に伴う精査による 事業費増	影響なし	●	
	地域交流センター(女子寮)	123	A=100㎡	0	A=0㎡	平成26年に計画変更して削除 歴史的価値が非常に高いと判断さ れていることから、保存活用につ いての検討を行うこととしたため、事業 計画期間内での完了が困難と なったことにより削除	指標1への影響が考えられるが、指標及び数値目標は据え置く。		

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業									
事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	案内サイン	20	N=39基	25	N=26基	設計内容の修正による事業費増	影響なし		●
	便益施設(観光交流センター)	157	A=180㎡	124	A=239㎡	設計内容の修正による事業費減	影響なし	●	
	便益施設(観光交流センター外構)	20	A=1,500㎡	9	A=617㎡	設計内容の修正による事業費減	影響なし	●	
	撤去(公園管理棟・小屋)、備品倉庫 整備	3		21	A=50㎡	平成26年に計画変更 イベントなどで使用する備品の管理 倉庫が必要となったため、景観に配 慮した備品倉庫の整備を追加した ことによる事業費増	影響なし	●	
事業活用調査	事業効果分析調査	3		3		なし	—	●	
	オープンカフェ社会実験	3		0		平成26年に計画変更して削除 観光交流センターの完成が遅れ、 社会実験で検討していた内容の実 施が困難となったことにより削除	影響なし		
まちづくり 活動推進事業	景観ルール策定ワークショップ	10		10		なし	—	●	
	観光案内パンフレット作成	4		4		なし	—		●

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業								
事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更 計画	当初計画	最終変更計画		
国道338号大湊Ⅱ期バイパス整備事業		桜木町、宇田町～大湊浜町	2,497	2,497	平成19年度～平成26年度	平成19年度～	当地区の活性化に大きく貢献 する事業であるため、進捗を 図る必要がある。	—
重要文化財建造物公開活用事業		旧大湊水源地道施設	0	15	—	平成24年度～平成25年度	予定どおり平成25年度に完 了し、重要文化財保存活用計 画を策定した。	—
重要文化財保存修理事業		旧大湊水源地道施設	0	100	—	平成26年度～平成27年度	予定どおり進捗しており、重 要文化財の調査工事を進め ている。	—

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度	基準 年度	基準 年度	基準 年度	目標 年度	目標 年度	モニタリング	H25	数値	モニタリング	△	あり	なし
指標1	北洋館入場者数	人/年	—	—	5,577	H21	10,400	H27	モニタリング	H25	8,843	モニタリング	△		
									事後評価	確定	●	10,626	事後評価	○	
指標2	認識度調査アンケート	%	—	—	19.2	H22	75.0	H27	モニタリング	H25	22.1	モニタリング	×		
									事後評価	確定	●	18.0	事後評価	×	
指標3	イベント回数	回/年	—	—	3	H22	7	H27	モニタリング	H25	3	モニタリング	×		
									事後評価	確定	●	8	事後評価	○	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	観光交流センター、展望台などの観光施設のほか、駐車場、園路、案内サイン等の整備による、景観づくりや観光・交流ゾーンの形成により、回遊性の向上及びイベント回数の増加につながり、水源池公園への来訪者が増加した効果により、目標値を上回った。	—
指標2	従前値、モニタリング値及び事後評価値ともに、認識度は20%前後と、ほぼ横ばいで推移しており、改善傾向が見られないことと、目標値と評価値の差が大きいことから、1年以内での目標値の達成は困難であると判断した。	—
指標3	観光交流センターをはじめとして、公園、駐車場、ポケットパーク等の整備により、誰もが訪れたいくなる環境が創出され、イベントの開催機運が高まった効果により、観光交流センターや公園内を活用したイベントが増加し、目標値を上回った。	毎年同じイベントが開催されるとは限らないため、年によってイベント回数に差が出るが考えられる。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合



添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度		基準年度					
その他の数値指標1	観光交流センター(北の防人大湊 安渡館)入館者数	新設された観光交流センター(北の防人大湊 安渡館)における年間利用者数を、出入口に設置しているカウンタでの計測データにより確認する。 平成27年4月に開館したため、1年間のデータ入手が不可能であることから、評価値としては、平成27年4月～9月の実績と近隣施設である北洋館における平成26年10月～平成27年3月の実績を集計し、評価基準日の評価値(見込み値)とする。	—	—	—	—	モニタリング	—	—	交流人口の拡大が図られたことを表す指標として、新規施設である観光交流センターの入館者数を把握し、目標に対する効果発現を評価する。	—
			事後評価	確定	見込み	●	50,959				

※1 計画以前の値 とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・「旧学習センター」を改修した「みどりのさきもり館」では、「花とみどりの講習会」などの花やみどりに関する催しが開催され、市民参加者からの好評を得ているほか、市内におけるみどりと花のまちづくりの拠点となっている。
- ・「花とみどりの講習会」への参加者に、「観光交流センター」のカフェで利用できるドリンク券を配布するなど、施設間の連携を図っており、相互の賑わいを創出している。
- ・駐車場、園路のバリアフリー化のほか、ポケットパークや便益施設などの整備により、介護施設の入所者が団体で訪れるなど、新たな交流や憩いの場として利用されている。
- ・園路、トイレなどの整備や景観づくりにより、散歩やジョギングなどで多くの市民に利用されている。

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
海上自衛隊大湊地方総監部が計測したデータを基に、指標1の目標値の達成状況を把握する。	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>●</p> <p>【実施頻度】1回 【実施時期】平成25年度 【実施結果】採用した指標は、海上自衛隊大湊地方総監部により、データが整理されているものであるため、モニタリングを容易に実施することができ、指標値が改善傾向にあることが確認できた。</p>	北洋館も含めた、北の防人大湊地区の各関連施設における入館者数の動向を把握していく。
国指定重要文化財に関するアンケート調査を行い、指標2の目標値の達成状況を把握する。	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>●</p> <p>【実施頻度】1回 【実施時期】平成25年度 【実施結果】重要文化財の認知度について、従前値の19.2%からモニタリング値は22.1%と微増したものの、目標値の75.0%にはほど遠い結果となった。</p>	案内サインの設置、観光PRポスターやリーフレットの作成、市ホームページの充実などのほか、近隣施設におけるPR活動を強化し、重要文化財に興味を持つ市民の増加を図り、認知度の向上につなげていく。
市による計測データを基に、指標3の目標値の達成状況を把握する。	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>●</p> <p>【実施頻度】1回 【実施時期】平成25年度 【実施結果】採用した指標は、市により、データが整理されているものであるため、モニタリングを容易に実施することができ、指標値に変化がないことが確認できた。</p>	水源池公園周辺におけるイベント回数の動向を把握していく。

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
対象地区における景観づくりを継続させるための景観ルールを策定するため、市民協働によるまちづくり手法として、ワークショップを開催する。	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	<p>●</p> <p>【実施頻度】計5回 【実施時期】平成25～26年度 【実施結果】市民、事業者、行政が共通の目標を持ち、それぞれの役割を認識し、効果的に取り組んでいくための意見交換を行い、いただいた意見ををもとに「大湊の景観づくりに関するルール」を策定した。</p>	まちづくりや事業の実施にあたっては、地域住民・団体との連携を図り、必要に応じて意見交換等を行う。

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名: 組織の概要	
—	<p>予定どおり実施した</p> <p>予定はなかったが実施した</p> <p>予定したが実施できなかった (理由)</p>	—	—	—

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(都市再生整備計画事後評価 庁内検討会)	関係各課職員(都市政策課、商工観光課、教育委員 会事務局生涯学習課)	平成27年12月3日	都市政策課(都市再生整備計画担当課)

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1		指標3		その他の数値指標1		—	
指標名		北洋館入場者数		イベント回数		観光交流センター(北の防人大 湊 安渡館)入館者数		—	
種別	事業名・箇所名	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見	指標改善 への 貢献度	総合所見
基幹事業	道路【市道宇田水源地線】	○	観光交流センター、展 望台などの観光施設の ほか、駐車場、園路、 案内サイン等の整備に よる、景観づくりや観 光・交流ゾーンの形成 により、回遊性の向上 及びイベント回数の増 加につながり、水源池 公園への来訪者が増 加した効果により、北 洋館入場者数が増加し た。	観光交流センターをは じめとして、公園、駐車 場、ポケットパーク等の 整備により、誰もが訪 れたい環境が創出 され、イベントの開催機 運が高まった効果によ り、観光交流センター や公園内を活用したイ ベントが増加した。	当地区に不足していた カフェテリアやおみやげ 店を備えた観光交流セ ンターのほか、道路、 駐車場、園路、案内サ イン等の整備により、 誰もが訪れたい環境 が創出されたこと や、イベント回数が増 加した効果により、多く の市民や観光客に利 用されている。	○	—	—	
	道路【市道桜木町3号線】	○							
	道路【市道桜木町4号線】	◎							
	道路【市道桜木町5号線】	○							
	道路【市道桜木町9号線】	○							
	公園【水源池公園(管理施設・園路・施設改修)】	○							
	地域生活基盤施設【ポケットパーク、広場、情報板】	○							
	高次都市施設【観光交流センター】	○							
	既存建造物活用事業【地域交流センター(学習センター)】	—							
既存建造物活用事業【地域交流センター(収蔵庫)】	△								
提案事業	地域創造支援事業【案内サイン】	◎				○	—	—	
	地域創造支援事業【便益施設(観光交流センター)】	○							
	地域創造支援事業【便益施設(観光交流センター外構)】	○							
	地域創造支援事業【撤去(公園管理棟・小屋)、備品倉庫整備】	—							
	事業活用調査【事業効果分析調査】	—							
	まちづくり活動推進事業【景観ルール策定ワークショップ】	—							
関連事業	まちづくり活動推進事業【観光案内パンフレット作成】	△				△	—	—	
	国道338号大湊Ⅱ期バイパス整備事業	—							
	重要文化財建造物公開活用事業【旧大湊水源地水道施設】	—							
	重要文化財保存修理事業【旧大湊水源地水道施設】	—				—			

※指標改善への貢献度

- ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
- ：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
- △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	重要文化財や石造り建造物が集約している水源池公園周辺を観光資源としてPRすることにより、入場者数の増加につなげていく。	イベントの継続的かつ効率的な開催により、水源池公園周辺における賑わいを創出し、水源池公園周辺を訪れる市民や観光客の増加につなげていく。	重要文化財や石造り建造物が集約している水源池公園周辺を観光資源としてPRすることにより、入館者数の増加につなげていく。
-------	---	---	---

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2			—			—			—		
指標名		認識度調査アンケート			—			—			—		
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	道路【市道宇田水源地線】	—	アンケート調査の結果、水源池公園周辺を年3回以上訪れる市民が約3割しかないことが判明し、重要文化財にふれる機会が少ない状況であるほか、重要文化財をPRするための地域交流センター（収蔵庫）や案内サイン等の整備が、アンケート調査時点では未完成であったことから、重要文化財のPR不足となったことにより、目標値を下回った。	I									
	道路【市道桜木町3号線】	—											
	道路【市道桜木町4号線】	—											
	道路【市道桜木町5号線】	—											
	道路【市道桜木町9号線】	—											
	公園【水源池公園（管理施設・園路・施設改修）】	—											
	地域生活基盤施設【ポケットパーク、広場、情報板】	×											
	高次都市施設【観光交流センター】	×											
	既存建造物活用事業【地域交流センター（学習センター）】	×											
既存建造物活用事業【地域交流センター（収蔵庫）】	×												
提案事業	地域創造支援事業【案内サイン】	×											
	地域創造支援事業【便益施設（観光交流センター）】	—											
	地域創造支援事業【便益施設（観光交流センター外構）】	—											
	地域創造支援事業【撤去（公園管理棟・小屋）、備品倉庫整備】	—											
	事業活用調査【事業効果分析調査】	—											
	まちづくり活動推進事業【景観ルール策定ワークショップ】	—											
関連事業	国道338号大湊Ⅱ期バイパス整備事業	—											
	重要文化財建造物公開活用事業【旧大湊水源地水道施設】	△											
	重要文化財保存修理事業【旧大湊水源地水道施設】	△											

※目標未達成への影響度

- ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
- ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
- △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
- ：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

- 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
- 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
- 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

<p>改善の方針 (記入は必須)</p>	<p>市のホームページ、広報誌のほか、案内サインの設置や関連施設における広報等により、アンケート調査結果を踏まえた重要文化財のPR活動を展開する。また、水源池公園周辺の重要文化財や石造り建造物に関するイベントの開催や重要文化財に関する学習の機会の提供など、重要文化財にふれあう機会を創出することにより、水源池公園周辺を訪れる市民の増加と市民の重要文化財に対する関心度・認知度の向上を図り、併せて、市民の観光客に対するおもてなしの心を育てる。</p>
--------------------------	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

##### 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
庁内の横断的な組織(都市再生整備計画事後評価庁内検討会)	関係各課職員(都市政策課、商工観光課、教育委員会事務局生涯学習課)	平成27年12月3日	都市政策課(都市再生整備計画担当課)

##### 添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
水源池公園の園路や駐車場等のバリアフリー化による誰もが訪れたい環境の創出	バリアフリーに対応した園路、駐車場の整備のほか、各施設においてもバリアフリーに対応させ、高齢者、障がい者、市民、観光客など誰もが訪れやすい環境を創出した。	—	重要文化財に対する認識度が低い。
売店や軽食機能などの便益施設の整備による市民や観光客の受入れ機能の向上	観光交流センター内に海軍グッズや海上自衛隊グッズなどを販売する売店やカフェテリアなどの便益施設を整備し、市民や観光客などの受入れ機能の向上を図った。	—	
旧海軍官舎等の石造り建造物の観光資源としての活用による交流人口の拡大	海軍士官の官舎や社交場として建設された石造り建造物を、「北の防人大湊 弐番館」や「北洋館」などの観光資源として活用することにより、憩いの場の創出や交流人口の拡大を図った。	海軍士官の官舎として建設され、後に高等学校の女子寮として使用されていた石造り建造物を「北の防人大湊 弐番館」として改修する計画としていたが、計画変更により削除したため、未着手の状態となっている。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	高齢者、障がい者、市民、観光客など誰もが訪れやすい環境の創出	・主たる基盤整備はほぼ完成したため、景観形成を考慮した適切な維持管理に努める。 ・市民とともに、景観づくりを進める。	・景観づくりを考慮した公園施設や建築物等の維持管理 ・「大湊の景観づくりに関するルール」の普及 ・景観法に基づく景観計画の策定による景観づくりの推進
	市民や観光客などの受入れ機能の向上	主たる基盤整備はほぼ完成したため、便益施設等におけるソフト面での受入れ機能の強化に努める。	・スタッフ等の研修事業 ・ボランティアガイドの育成 ・下北ジオパーク構想との連携
	市民や観光客などによる交流人口の拡大	重要文化財や石造り建造物が集約している水源池公園周辺一帯を、景観を活かした観光資源として、市ホームページや観光PRポスター・リーフレットなどによるPR活動に努める。	・リーフレットの配布拡大 ・市のホームページや広報誌によるPR強化 ・イベントの実施

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	旧女子寮の保存活用	大正4年に建造された当施設は、外部・内部共に建造当初の状態が維持され、歴史的価値が非常に高いと判断されていることから、保存活用についての検討を行う。	・旧女子寮保存活用事業
	重要文化財に対する認識度の向上	・市のホームページ、広報誌、案内サインのほか、関連施設における広報等により、重要文化財のPR活動を強化する。 ・水源池公園周辺の重要文化財や石造り建造物にふれあう機会を創出する。	・市のホームページ、広報誌、案内サイン等によるPR強化 ・イベントの実施 ・ボランティアガイドの育成 ・重要文化財に関する学習の機会の提供
	—	—	—

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

・当地区の活性化に大きく貢献すると考えられる、国道338号大湊Ⅱ期バイパス整備事業の進捗を図る必要がある。

**添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画**

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無	フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度	確定	見込み			予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	北洋館入場者数	人/年	5,577	H21	10,400	H27	確定 見込み ●	10,626	○	あり なし	→	平成29年4月	平成28年4月～平成29年3月の入場者数を集計し、確定値とする。	—
指標2	認識度調査アンケート	%	19.2	H22	75.0	H27	確定 見込み ●	18.0	×	あり なし ●	→	平成29年4月	平成29年3月に実施するアンケート調査により、認識度を把握し、確定値とする。	—
指標3	イベント回数	回/年	3	H22	7	H27	確定 見込み ●	8	○	あり なし	→	—	—	—
その他の数値指標1	観光交流センター入館者数	人/年	0	H22	/		確定 見込み ●	50,959	/		→	平成29年4月	平成28年4月～平成29年3月の入館者数を集計し、確定値とする。	—

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	指標1及び指標3について、市や海上自衛隊大湊地方総監部により、毎年データが整理されている指標を採用したことにより、容易に評価値を算出することができた。	・毎年データを計測している指標を選定することにより、評価値を簡易に把握することが可能となる。 ・アンケート調査実施時には、市内における人口の性別割合や年代別構成比等を参考にして、対象者を抽出することが望ましい。
	うまくいかなかった点	指標2の評価値の算出にあたり実施したアンケート調査について、対象者を無作為抽出した結果、性別・年齢層に偏りが見られた。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	特になし	—
	うまくいかなかった点	特になし	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	ワークショップの開催により、市民自らが自分のまちのことについて考える良い契機となり、景観に関しても興味・関心を高められた。	・市民参加によるワークショップ等を開催する場合は、参加者を多くするための工夫が必要である。
	うまくいかなかった点	ワークショップへの参加者数が少なかった。	
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	指標1及び指標3については、市や海上自衛隊大湊地方総監部により、毎年データが整理されているものであるため、モニタリングを容易に実施することができ、かつ、計画期間中での事業の効果を確認することができた。	・モニタリングの実施は、計画期間中における事業の進捗状況や効果を確認することができ、有効である。
	うまくいかなかった点	特になし	
その他	うまくいった点	特になし	—
	うまくいかなかった点	特になし	

### 添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

・今後の都市再生整備計画事業の活用予定

コンパクトシティ形成における都市拠点を強化するため、中心市街地である田名部地区の再生・活性化が必要である。平成27年4月に、田名部まちなか地区都市再生整備計画を策定し、都市再生推進法人「田名部まちづくり株式会社」との連携によるまちづくりに取り組んでいる。今後、市が実施する予定の事業については、都市再生整備計画事業の活用を検討していく。

・事後評価を予定している地区

現在のところ、予定なし。



(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成27年12月14日～12月28日	平成27年12月14日～12月28日	担当課への電子メール、FAX、郵送、持参	都市政策課 (都市再生整備計画担当課)
広報掲載・回覧・個別配布	広報への掲載により、都市政策課窓口での閲覧及び市のホームページへの掲載により原案を公表している旨を周知	平成27年11月25日発行	平成27年12月14日～12月28日		
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	—	—	—		

住民の意見	意見なし
-------	------